



LAYANG LAYANG

9-10月の出来事

MPCとの協力本格始動：マレーシアでの生産性向上のために

10月11日、マレーシア生産性公社（MPC）とJICA専門家の田中弘一氏、JICAマレーシア事務所の3者で、MPCへの技術協力の内容に合意する協議議事録署名が行われました。

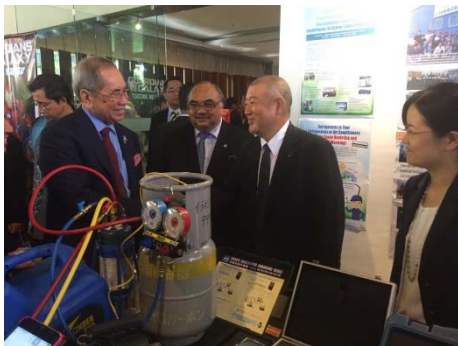
この協力は、マレーシアで行われている「リーン・マネジメント」の質の向上のため、トヨタ生産システムツールの活用、5S・KAIZENなどの指導モジュールの策定・編集、企業訪問・指導に日本の知見と経験を活かしたいとするMPCからの要請に応えたものです。田中専門家は、2018年10月までの間、MPCで活動、MPCスタッフへの指導・助言を行い、協力終了後もMPC自身がリーン・マネジメントを継続的に普及・定着させていくことを目指します。



活動の本格展開に向けて団結

「生産性向上（リーンマネジメント手法向上指導）」 期間：2016/12- 2018/10 マ側機関：マレーシア生産性公社

オゾンデーでフロンガスの回収・再生に向けた取組みを紹介



天然資源・環境省大臣もブースを訪問

10月15日、天然資源・環境省環境局が主催する「ナショナル・オゾンデー」に太洋商事株式会社が展示ブースを出展しました。太陽商事は、JICAのプロジェクトを通じ、環境局とともに、フロンガス回収・再生のメカニズム構築及び事業化に取り組んでおり、今回のイベントでは、この取り組みと同社の商品を紹介しました。

本事業を通じて、マレーシアにおけるフロンガス規制や再生の仕組みづくりが進み、マレーシア政府が目指すフロンガス段階的廃止計画達成に貢献することが期待されています。

「オゾン層保護と気候変動対策に資するフロンガス回収・再生・破壊処理産業創出普及・実証事業」 期間：2017/3 - 2019/2 マ側機関：環境局

マレーシアとのパートナーシップの下、他国向け研修を実施

8月から10月にかけて、マレーシア外務省、その他政府機関などと協力して、産業振興、理数科教育、自然保護といった分野で、主にアフリカ、東南アジア、パレスチナからの参加者を対象とした研修を9件実施しました。参加者は、各分野でのマレーシア政府機関の実施能力の高さに感嘆していました。詳しくはJICAマレーシア事務所ウェブサイトをご覧ください。



マレーシアの学校で模擬授業を実施するアフリカからの研修員

<https://www.jica.go.jp/malaysia/office/information/event/index.html>



日本や周辺国の経験を基に高齢者の積極的な社会参画を後押し

9月12日、13日、マレーシア社会福祉局と共同で、高齢者のコミュニティ参加をテーマとしたセミナーを開催しました。セミナーでは、マレーシアの高齢化に関する人口動態や高齢者に対する所得保証などの社会的保護の必要性、インドネシアにおける高齢者サービスなどが説明されました。また、日本の経験から、支えられる側と支える側のバランスの重要性にも言及されました。本プロジェクトは、本セミナーを以て主要な活動を終え、今後は、社会福祉局がプロジェクトでの学びを実際の施策に生かしていくことになります。



高齢者の健康維持のための
体操のデモンストレーション

「高齢化社会に向けた地域社会に根差したプログラム及び社会的支援の構築プロジェクト」 期間：2015/ 11 - 2017/ 11 マ側機関：社会福祉局

トレンガヌ州にて帰国研修員同窓会と日本理解を促進

10月13日、トレンガヌ州で開催された内務省団体登録局（ROS）主催のイベントで、帰国研修員同窓会（myJICA）が日本文化紹介を行いました。当日は、マレーシア留学中の日本人留学生3名の協力を得て、空手、折り紙、天ぷら、習字、ゆかた、盆踊りといった様々な文化が紹介され、多くの訪問者の関心を集めていました。特にゆかた試着体験の人気は高く、ムスリムの女性がスカーフをつけ服の上からゆかたを着る姿は印象的でした。



ザヒド副首相兼内務大臣も
同窓会のブースを訪問

その他のニュース 「南南協力」他

- 初歩レベルを超えるー KAIZENーTQM第三国研修（2017年9月13日）
<https://www.jica.go.jp/malaysia/office/information/event/170913.html>
- 科学玩具づくりで理論と技術をつなげるー初等理数科教育第三国研修（2017年9月20日）
https://www.jica.go.jp/malaysia/office/information/event/170920_01.html
- アフリカの研修員とマレーシア企業のセミナー開催ー投資促進第三国研修（2017年9月20日）
https://www.jica.go.jp/malaysia/office/information/event/170920_02.html
- コミュニティと国立公園を同時に維持ー生態系保存のための第三国研修（2017年10月12日）
<https://www.jica.go.jp/malaysia/office/information/event/171012.html>
- 実際の職場で模擬指導ー第三国研修 労働安全衛生管理（2017年10月18日）
https://www.jica.go.jp/malaysia/office/information/event/171018_01.html
- 30年以上のたゆみない努力を基盤としてー第三国研修 産業人材育成教育（2017年10月18日）
https://www.jica.go.jp/malaysia/office/information/event/171018_02.html
- まるでマレーシアサバ国
<https://www.jica.go.jp/hotangle/asia/malaysia/20171114.html>
- マレーシア文化、日本文化
https://www.jica.go.jp/hotangle/asia/malaysia/20171017_01.html

マレーシアののどかな村での生活

都市部を離れると、まだまだ自然に囲まれたカンポン（村）がたくさんあるマレーシア。今回は、サバ州山間部の村での生活を少し紹介します。

朝7時頃、多くの村民は、ゴムの樹液採取のために、ゴムの木を削りに行きます。この削る作業は、タッピングと言ひ、簡単そうなのですが、実際にやってみると、実は難しいです。というのも、ゴムの木は、削り出してから30年ほどの寿命があるのですが、できるだけ寿命を長くするためにも少しずつ削ります。強い力が必要、でも、削りすぎではいけない。欲張らず、適度に、かつ力を入れて削るといのが、なかなか難しく、何度挑戦しても上手くできません。

木を削ると、ポタポタ白い液体が流れてくるので、その液体がカップに溜まるようにしておき、削ってから2時間後に、樹液を集めに行きます。集めた樹液は、ある薬剤と一緒に混ぜることで、液状からゴム状に変化します。ゴム板の形にしておくと、週に一度、町から業者が買いに来て、現金収入が得られます。

村民の主な現金収入は、この「ゴム樹液採取」。1kgでRM3（約75円）くらいだそうです。昔は約RM8だったのに、価格が急落し、さらに2015年からは消費税が導入されたため、町では物価が上がり、生活はなかなか安定していません。

ゴム採取以外には、村民は稲作や畑作業をしています。この村では、水稻栽培をしている家庭は2軒で、他の村民は陸稲栽培を行っています。10月は、焼畑をして田植えをする期間。だいぶ急な斜面ではありますが、他の村に住んでいる親戚も呼び寄せて、家族みんなで田植えを行って行きます。村で育った陸稲は、少し粘り気もあり美味しいです。

何よりも家族が大切なカンポンの暮らし、その生活が今より少し豊かになるように、お手伝いをする毎日です。



丁寧にゴムの樹液を集める村人と
ゴムの木から採取される白い樹液

*村の様子はこちらをご覧ください：Instagram account：kg_usmb_official

（青年海外協力隊（コミュニティ開発） 永岡 愛）

JICAマレーシア及びニュースレターのバックナンバーはこちら→ <http://www.jica.go.jp/malaysia/index.html>

JICAホームページはこちらから→ <http://www.jica.go.jp/>

配信(追加、停止等)に関するご希望、ご意見、ご要望など → ms_oso_rep@jica.go.jp

JICA Malaysia Office

Level 29, Menara Citibank, 165 Jalan Ampang 50450 Kuala Lumpur Malaysia

Tel: 603-2166 8900 Fax:603-2166 5900 E mail address : ms_oso_rep@jica.go.jp